

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R3.12/27(月) ~ R4.1/2(日)

令和3年第52週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	29人	33人	-	-
	② 対人口10万人	1.9人	2.1人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.88	1.94	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		72%	48%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		1.2%	0.8%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		1/2現在	12/26現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	16人	14人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	3.4%	2.9%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	0人	1人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	0.0%	1.4%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	37人	36人	-	-
	⑨ 対人口10万人	2.4人	2.3人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	1/2現在	12/26現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	43.2%	38.9%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果^{※5} (懸念される変異株 (Variant of Concern : VOC^{※6}) の検出状況)

※5 川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載

※6 国立感染症研究所が分類した「主に感染性や重篤度が増す・ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株」

懸念される変異株 : VOC	直近1週間 12/27 ~ 1/2	前週 12/20 ~ 12/26	累計 3/11 ~ 1/2
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	46件	26件	586件
ο株 (オミクロン)	-	-	-

ο株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行います。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、いわゆる第5波について、感染の状況は第33週（8月16日～22日）、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして、週によって若干数値の増減はあるものの、第49週（12月6日～12日）までは減少が続いていましたが、第50週、第51週（前週）は、新規陽性者数、入院中患者数、入院中重症患者数は若干の増加傾向となりました。第52週（今週：12月27日～令和4年1月2日）は、新規陽性者数は若干の減、入院中患者数は若干の増、入院中重症患者は若干の減となりました。全体として落ち着いている状況が続いているものの、全国的にも状況は増加傾向にあり注意が必要です。

ステージ分類は、第41週（10月4日～10日）、第42週と2週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となりました。第43週は、感染経路不明割合がステージⅣとなりましたが、再び第44週（11月1日～7日）～第46週はステージⅣ、Ⅲのない状況が3週連続しました。第47週～第50週は感染経路不明者の割合が65%、75%、71%、82%と高値となり4週連続してステージⅣ（50%以上）となっていました。第51週（前週）は48%と減少したためステージⅣ・Ⅲ解消、第52週（今週）は72%であり、再びステージⅣとなりました。

<感染の状況:直近1週間>

① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第48週8人・第49週7人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週17人、第51週（前週）33人と若干の増加が見られました。第52週（今週）は29人と大きな変化はありませんでした。

② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第39週に9.0人と1桁台となり、第48週・第49週0.5人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週1.1人、第51週（前週）は2.1人と、若干の増加傾向が見られました。第52週（今週）は1.9人と大きな変化はありませんでした。

ステージ分類は第39～52週（今週）と14週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となっています。

③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進み、第48週0.40、第49週は0.88でしたが、第50週は2.43と増加、第51週（前週）は1.94と減少し、第52週（今週）は0.88と減少しています。新規陽性者数が非常に少なくなった中での数値のため、今後変動しやすい数値であると考えています。

④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）の81%をピークに減少に転じ、第41週に47%となり、23週連続でステージⅢ・Ⅳ相当（50%以上）であったものが、24週ぶりにステージⅢ解消となりました。第43週は89%と上昇してステージⅣ、第44週は39%と減少し再びステージⅣ、Ⅲ解消となりましたが、第47週65%、第48週75%、第49週71%、第50週82%と増加し、4週連続してステージⅣ（50%以上）となった後、第51週（前週）は48%と低下し、ステージⅣ、Ⅲ解消となりました。第52週（今週）は72%と増加し、再びステージⅣとなりました。③と同様、新規陽性者数が非常に少なくなった中での調査のため、今後変動しやすい数値であると考えていますが、市内のどこか複数個所にウイルスが潜んでいて少数ながら感染者が持続して発生している状況が続いていると考えられます。

⑤ 検査陽性率は、第32週に54.9%と急上昇しました。この検査陽性率の急上昇については、表の※3で説明し、算定方法を34週から変更しています。そのため連続性が失われますが、新算出方法では第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第42週以降は1%前後、第48週、第49週は0.2%でした。第50週は0.4%、第51週（前週）は0.8%、第52週（今週）は1.2%と増加が見られています。

ステージ分類では第38週まではステージⅣ（10%以上）であり、旧算定方法を含み12週連続してステージⅣ相当となっていました。その後は第39～第52週（今週）と14週連続してステー

ジⅢ(5%以上) 解消となっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日 1.2 現在>

⑥ 入院中の患者数は、第 34 週（8 月 23 日～29 日）286 人をピークに減少が進み、第 39 週に 2 桁台 64 人となりました。第 47 週以降は 3 人→5 人→2 人、そして第 50 週は 5 人、第 51 週 14 人、第 52 週（今週）は 16 人と増加しています。

確保病床数は第 24 週の 241 床から徐々に増床が続き、第 44 週以降第 52 週（今週）まで、計 477 床となっています。したがって、病床使用率は異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第 33 週（8 月 16 日～22 日）93.9%をピークに減少に進み、第 40 週から 1 桁台の 8.6%となり、第 47 週以降は 0.6%→1.0%→0.4%、そして第 50 週 1.0%、第 51 週 2.9%、第 52 週（今週）は 3.4%と増加しています。ステージ分類では第 39～52 週（今週）と 14 週連続してステージⅢ解消となっています。

⑦ 重症入院患者数は第 34 週（8 月 23 日～29 日）68 人をピークに減少が進み、第 40 週～第 46 週は 1 桁台となり、第 47 週～第 50 週は 4 週連続してゼロ人となっていました。第 51 週は 1 人となり、第 52 週（今週）は再びゼロ人となっています。

重症者の確保病床は第 31 週の 30 床から徐々に増床が続き、第 44 週以降第 52 週（今週）まで、計 69 床となっています。したがって、重症病床使用率も入院病床使用率と同様に異なった病床数を母数にして算定することになりますが、第 33 週（8 月 16 日～22 日）の 146.7%をピークに減少傾向となり、第 36 週に 2 桁台の 72.7%となり、第 41 週には 1 桁台の 6.1%となりました。

第 47 週～第 50 週は重症患者数ゼロとなったため、重症病床使用率も 4 週続けて 0.0%となっていました。第 51 週（前週）は 2.9%となり、第 52 週（今週）は再び 0.0%となっています。

ステージ分類ではステージⅣ（50%以上）が 7 週連続した後、第 37 週、第 38 週がステージⅢ（20%以上）、そして第 39～52 週（今週）と 14 週連続してステージⅢ解消となっています。

⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第 33 週（8 月 16 日～22 日）4143 人をピークとして減少が進み、第 38 週に 478 人と 3 桁台、第 41 週に 73 人と 2 桁台となり、第 49 週は 8 人と 1 桁台となりました。第 50 週 14 人、第 51 週（前週）36 人、第 52 週（今週）37 人と増加しています。

⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口 10 万人は、第 33 週（8 月 16 日～22 日）269.0 人をピークに減少が進み、第 37 週 74.3 人と 2 桁台、第 40 週 6.9 人と 1 桁台となり、第 48 週 0.8 人、第 49 週 0.5 人となりました。第 50 週 0.9 人、第 51 週 2.3 人、第 52 週（今週）2.4 人と増加しています。

ステージ分類は、第 39～52 週（今週）の 14 週連続してステージⅢ解消となっています。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が 46 件追加となり、令和 3 年 3 月 11 日～令和 4 年 1 月 2 日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は 586 件となっています。

新たな変異株（オミクロン株：o）が海外で急増し、国内でも海外感染例のみならず国内で感染したと思われる例も増加しています。川崎市モニタリングでは、オミクロン株は国内においても懸念される変異株（VOC: Variant of Concern）とみなされているところから「変異ウイルス検出状況」に加えております。11 月 28 日までは 0 件と表示しましたが、今後 o 株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行うため、o 株に関しては目下のところバー（-）表示としております。

皆さま、あけましておめでとうございます

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、感染の状況は第 33 週（8 月 16 日～22 日）、医療提供体制等の負荷については第 34 週（8 月 23 日～29 日）をピークとして減少が続き、新規陽性者数は第 48 週・第 49 週は今年の最低値となりました。しかし、第 50、第 51 週、第 52 週は微増傾向となっており、全体としては落ち着いている状況で年が明けましたが、全国的にも増加傾向にあり注意が必要です。

若干の数値の増加で再び大きな不安感を持つ必要はありませんが、一方で注意が緩みすぎてしまい安心が油断とならないよう、リスクの高い行動には気を付けながら、日常生活がさらに回復し、それが維持できるよう、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

「新たな感染症とともに暮らせる年」、行きすぎない程度の注意をしながら普通の生活ができる年になることを本年の目標にしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。